

科学技術分

研究分野	研究目標	NO.	達成目標	測定指標	研究指標の実績（計画/実績）	達成手段	達成手段が達成目標の達成にどのように貢献するか
7-1、先端技術創発に向けた産業を創出する基盤となるイノベーションシステムの形成	7-1-1	世界に比肩するスタートアップ・エコシステム拠点の形成を推進し、実践的なアントレプレナーシップ教育の実施や大学の研究シーズの事業化を一体的に推進することにより、全国で大学等発スタートアップの創出増進を推進する。	①実践的なアントレプレナーシップ教育プログラムの受講者数（目標値：1,200（2025年度）） ②大学等発スタートアップ創出数（目標値：350（2025年度））	①600名（2020年度）、31,336名（2021年度）、●名（2022年度・調査中） ②274件（2020年度）、2,449件（2021年度）、●件（2022年度・調査中）	イノベーションシステム整備事業（レビュー番号：2023-文科-22-0201） 国立研究開発法人科学技術振興機構運営交付金に必要経費（レビュー番号：2023-文科-22-0203）（研究費事業） 大学発スタートアップ創出の取組の強化（レビュー番号：2023-文科-22-0207）	○社会課題の解決をもたらしスタートアップの創出及び発展的な支援を実現するため、大学等発スタートアップ創出を促進する組織整備や、研究開発プラットフォームによる資金支援（Gap Funder）を実施する。 ○スタートアップ・エコシステム拠点創発の独自の取組を推進し、世界に比肩する自律的なスタートアップ・エコシステムを創出する。このため、拠点創成に付し、実践的なアントレプレナーシップ教育の実施を含む、大学等におけるスタートアップ創発の活性化やGap Funder等の取組を行う。	
	7-1-2	研究官連携による新たな価値創生の推進に向け、大学等と民間企業による協創組織の大学等共創を推進し、大学等への研究費拠出を拡大する。	①大学等及び独立研究開発法人における民間企業からの共同研究の受入額（目標値：2025年度までに、対2018年度比で約7割増） ②共同研究開発法人・ベンチャー・アカデミア等との共同研究の受入額（目標値：2025年度までに、対2018年度比で約7割増）	①882億円（2018年度）、1,062億円（2020年度） ②508億（2022年度） ③100億（2022年度） ④16,241億（2022年度）	イノベーションシステム整備事業（レビュー番号：2023-文科-22-0201） 地域における拠点形成等の構築に向けた取組の推進（レビュー番号：2023-文科-22-0202） 国立研究開発法人科学技術振興機構運営交付金に必要経費（レビュー番号：2023-文科-22-0203）（研究費事業）	○大学等が持つイノベーションの高度である知と社会ニーズとのマッチングを加速化するため、産学共同研究の推進を強化する。 ○2020年6月に産官連携推進ガイドラインにおいて取りまとめた、大学等、産業界における課題と協力策について、大学等、産業界等との協力を進め、産官連携における新たな取組を推進する。 ○持続的な学官連携プロジェクトの取組や事業の推進を支援するマサチューセッツ工科大学、スタンフォード大学などの事例を参考に、大学等におけるオープンイノベーション拠点の整備等を推進し、大学、国立研究開発法人、研究機関、企業等の連携を推進する。	
7-2、様々な社会課題に向けた科学技術、イノベーションに向けた社会協力の活用	7-2-1	競争的研究費について、不合理な重複や過剰な集中を排除することと効果的に配分するとともに、研究機関における公的研費の適切な管理・監査体制の整備を促進することで不正利用を防止し、競争的研究費が有効活用されている状態を実現する。また、公正な研究活動のための体制の充実・強化を図る。	①「競争的研究費の適正な執行に関する報告」等、競争的研究費の適正な執行に関するルールの対象機関のうち、府県共同研究開発システム（e-Read）に登録されている競争的研究費の活用率の割合（目標値：100%（毎年）） ②公的研費の管理・監査に係る体制整備状況の調査の結果、体制に不備のない機関の割合（目標値：100%（毎年）） ③公正な研究活動の推進に関する取組状況の調査の結果、他の機関の参考となる取組をしていると認められる機関割合（目標値：100%）	①100%（2020年度）、100%（2021年度）、100%（2022年度） ②100%（2020年度）、100%（2021年度）、100%（2022年度） ③80%（2020年度）、80%（2021年度）、80%（2022年度）	科学技術に関する研究不正対応（レビュー番号：2023-文科-22-0212） 競争的研究費管理費（レビュー番号：2023-文科-22-0214） 国立研究開発法人科学技術振興機構運営交付金に必要経費（レビュー番号：2023-文科-22-0203）【7-1再掲】 国立研究開発法人科学技術振興機構運営交付金に必要経費（レビュー番号：2023-文科-22-0210） 科学技術システムの現状・課題に関する基礎的研究（レビュー番号：2023-文科-22-0218） 科学技術イノベーション政策の推進に関する基礎的研究（レビュー番号：2023-文科-22-0219） 社会課題対応型科学技術に関する調査研究（レビュー番号：2023-文科-22-0220）	○「研究機関における公的研費の適切な管理・監査のガイドライン（実施指針）」（平成19年2月15日文科省大決）に基づく体制整備等の状況を確認した上で、取組を進めることで、研究機関における公的研費の適切な管理・監査に係る体制整備状況の調査の結果、体制に不備のない機関の割合（目標値：100%（毎年）） ○「研究機関における不正行為への対応に関するガイドライン」（平成26年2月26日文科省大決）を踏まえ適切な体制整備等の取組や取組の推進を支援するマサチューセッツ工科大学、スタンフォード大学などの事例を参考に、大学等におけるオープンイノベーション拠点の整備等を推進し、大学、国立研究開発法人、研究機関、企業等の連携を推進する。	
	7-2-2	競争的研究費について、不合理な重複や過剰な集中を排除することと効果的に配分するとともに、研究機関における公的研費の適切な管理・監査体制の整備を促進することで不正利用を防止し、競争的研究費が有効活用されている状態を実現する。また、公正な研究活動のための体制の充実・強化を図る。	①食品成分データベースのアクセス数（百万回）（目標値：2,853百万回／年（2023年度）） ②過去3か年の実績値の平均値より毎年設定。 ③分析食品の食品（食品数）（目標値：117食品（2023年度）） ④前年度の実績値を毎年目標値とする。	①2,865万回／年（2020年度）、2,817万回／年（2021年度）、2,785万回／年（2022年度） ②44食品（2020年度）、54食品（2021年度）、117食品（2022年度）	食料安全保障のための食品成分情報収集・活用等の推進（レビュー番号：2023-文科-22-0221）	食品成分に関する唯一の公的データである日本食品成分データベースについて、新食品成分調査データの分析、収集の促進としての両方を用いたデータ活用を推進することで、社会ニーズに対応した食品成分データベースの充実・強化に資する。	
7-3、様々な社会課題に向けた科学技術、イノベーションに向けた社会協力の活用	7-3-1	競争的研究費について、不合理な重複や過剰な集中を排除することと効果的に配分するとともに、研究機関における公的研費の適切な管理・監査体制の整備を促進することで不正利用を防止し、競争的研究費が有効活用されている状態を実現する。また、公正な研究活動のための体制の充実・強化を図る。	①科学技術に関する競争研究活動として学術資料「1年に1回」配付機能強化（機関別）（目標値：323機関） ②前年度の実績値を毎年目標値とする。 ③共同研究開発法人・ベンチャー・アカデミア等との共同研究の受入額（目標値：2025年度までに、対2018年度比で約7割増） ④前年度の実績値を毎年目標値とする。	①309機関（2020年度）、309機関（2021年度）、323機関（2022年度） ②244,418回（2020年度）、246,471回（2021年度）、155,451回（2022年度）	科学技術に関する競争研究活動（レビュー番号：2023-文科-22-0211）	科学技術に関する競争研究活動として、毎年4回の科学技術週間等の情報発信・イベント開催及び学術資料「1年に1回」の全国配布等を実施することで、民間の科学技術リソースの向上を図るとともに、科学技術イノベーション政策の推進に資するマサチューセッツ工科大学、スタンフォード大学などの事例を参考に、大学等におけるオープンイノベーション拠点の整備等を推進し、大学、国立研究開発法人、研究機関、企業等の連携を推進する。	
	7-3-2	競争的研究費について、不合理な重複や過剰な集中を排除することと効果的に配分するとともに、研究機関における公的研費の適切な管理・監査体制の整備を促進することで不正利用を防止し、競争的研究費が有効活用されている状態を実現する。また、公正な研究活動のための体制の充実・強化を図る。	①海外への研究費の受取額（中東域）（目標値：5149人（令和7年度）） ②海外からの研究費の受取額（中東域）（目標値：15806人（令和7年度）） ③国際共同研究費（目標値：38756人（令和7年度））	①1555人（令和3年度）、1017人（令和2年度） ②8858人（令和3年度）、9340人（令和2年度） ③34246人（令和2年度）、30630人（令和元年度） ※前年度の実績値を調査中	先端国際共同研究推進事業／プログラム（レビュー番号：2023-文科-22-0227） 科学技術国際活動の推進（レビュー番号：2023-文科-22-0225） 科学技術国際活動の推進（レビュー番号：2023-文科-22-0226）	優れた人材の国際的な獲得競争の激化、国際的な価値創造が進む中で、我が国の研究者が国際共同研究を通じて、科学技術の世界最先端の知見に触れられる機会を増やすことにより、我が国の研究水準の向上を図り、競争的な研究水準を確保・維持するとともに、国際的な研究ネットワークを構築する。	
7-3、様々な社会課題に向けた科学技術、イノベーションに向けた社会協力の活用	7-3-3	競争的研究費について、不合理な重複や過剰な集中を排除することと効果的に配分するとともに、研究機関における公的研費の適切な管理・監査体制の整備を促進することで不正利用を防止し、競争的研究費が有効活用されている状態を実現する。また、公正な研究活動のための体制の充実・強化を図る。	①文部科学省研究費の資金配分機関が、国際連携推進のために各機関と締結している有効な覚書（MoU）の数（目標値：前年度を上回る（毎年）） ②国際共同研究センター（OST）における、レギュラープロジェクトの実施件数（目標値：年度3期間の平均値以上（毎年）） ③OECD/G20グローバルイノベーションプラットフォーム（GIPF）において実施された、科学技術政策に関するプロジェクトの数（目標値：前年度以上）	①件（令和4年度）、135件（令和3年度） ②9件（令和4年度）、7件（令和3年度） ③4件（令和4年度）、6件（令和3年度）	国際共同研究センター（レビュー番号：2023-文科-22-0222） OECDが実施する国際連携推進の取組に向けた取組の取組（レビュー番号：2023-文科-22-0223） OECD/G20分岐点（レビュー番号：2023-文科-22-0224）	国際機関での活動を通じて、国・地域、研究分野等あらゆるレベルにわたる国際共同研究や国際共同研究等の取組を促進し、科学技術協力関係の構築に資する。	
	7-3-4	競争的研究費について、不合理な重複や過剰な集中を排除することと効果的に配分するとともに、研究機関における公的研費の適切な管理・監査体制の整備を促進することで不正利用を防止し、競争的研究費が有効活用されている状態を実現する。また、公正な研究活動のための体制の充実・強化を図る。	①中小学校現場における算数、数学、理科が「楽しい」と思う児童・生徒の割合（目標値：国際平均値以上） ②SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ③大学・研究機関の理工系工学系における女性の割合【数値】、財政再生計画改正工程表2021（J2大型研究施設の新設及び最大限の産業官民共同利用の促進）に「関連」（目標値：16（令和5年度）） ④SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑤SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑥SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑦SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑧SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑨SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑩SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑪SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑫SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑬SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑭SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑮SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑯SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑰SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑱SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑲SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑳SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉑SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉒SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉓SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉔SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉕SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉖SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉗SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉘SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉙SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉚SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉛SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉜SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉝SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉞SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉟SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊱SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊲SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊳SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊴SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊵SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊶SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊷SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊸SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊹SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊺SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊻SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊼SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊽SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊾SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊿SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加）				
8-1、先端技術創発に向けた産業を創出する基盤となるイノベーションシステムの形成	8-1-1	競争的研究費について、不合理な重複や過剰な集中を排除することと効果的に配分するとともに、研究機関における公的研費の適切な管理・監査体制の整備を促進することで不正利用を防止し、競争的研究費が有効活用されている状態を実現する。また、公正な研究活動のための体制の充実・強化を図る。	①中小学校現場における算数、数学、理科が「楽しい」と思う児童・生徒の割合（目標値：国際平均値以上） ②SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ③大学・研究機関の理工系工学系における女性の割合【数値】、財政再生計画改正工程表2021（J2大型研究施設の新設及び最大限の産業官民共同利用の促進）に「関連」（目標値：16（令和5年度）） ④SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑤SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑥SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑦SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑧SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑨SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑩SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑪SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑫SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑬SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑭SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑮SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑯SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑰SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑱SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑲SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑳SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉑SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉒SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉓SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉔SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉕SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉖SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉗SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉘SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉙SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉚SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉛SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉜SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉝SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉞SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉟SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊱SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊲SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊳SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊴SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊵SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊶SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊷SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊸SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊹SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊺SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊻SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊼SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊽SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊾SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊿SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加）				
	8-1-2	競争的研究費について、不合理な重複や過剰な集中を排除することと効果的に配分するとともに、研究機関における公的研費の適切な管理・監査体制の整備を促進することで不正利用を防止し、競争的研究費が有効活用されている状態を実現する。また、公正な研究活動のための体制の充実・強化を図る。	①中小学校現場における算数、数学、理科が「楽しい」と思う児童・生徒の割合（目標値：国際平均値以上） ②SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ③大学・研究機関の理工系工学系における女性の割合【数値】、財政再生計画改正工程表2021（J2大型研究施設の新設及び最大限の産業官民共同利用の促進）に「関連」（目標値：16（令和5年度）） ④SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑤SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑥SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑦SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑧SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑨SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑩SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑪SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑫SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑬SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑭SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑮SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑯SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑰SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑱SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑲SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ⑳SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉑SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉒SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉓SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉔SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉕SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉖SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉗SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉘SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉙SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉚SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉛SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉜SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉝SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉞SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㉟SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊱SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊲SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊳SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊴SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊵SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊶SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊷SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊸SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊹SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊺SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊻SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊼SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊽SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊾SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加） ㊿SSH大学の実績が「SSH推進大学に科学技術に対する興味・関心、意欲が向上した」と回答した割合（目標値：毎年度増加）				
8-2、基礎研究・学際研究の推進	8-2-1	競争的研究費について、不合理な重複や過剰な集中を排除することと効果的に配分するとともに、研究機関における公的研費の適切な管理・監査体制の整備を促進することで不正利用を防止し、競争的研究費が有効活用されている状態を実現する。また、公正な研究活動のための体制の充実・強化を図る。	①競争研究費の主要項目における新規採択率（目標値：30%） ②競争研究費による論文数（件）（目標値：167,768件） ③競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ④競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ⑤競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ⑥競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ⑦競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ⑧競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ⑨競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ⑩競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ⑪競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ⑫競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ⑬競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ⑭競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ⑮競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ⑯競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ⑰競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ⑱競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ⑲競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ⑳競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㉑競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㉒競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㉓競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㉔競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㉕競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㉖競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㉗競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㉘競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㉙競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㉚競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㉛競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㉜競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㉝競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㉞競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㉟競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㊱競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㊲競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㊳競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㊴競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㊵競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㊶競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㊷競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㊸競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㊹競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㊺競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㊻競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㊼競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㊽競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㊾競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件） ㊿競争研究費による論文の引用回数（件）（目標値：28,842件）				
	8-2-2	競争的研究費について、不合理な重複や過剰な集中を排除することと効果的に配分するとともに、研究機関における公的研費の適切な管理・監査体制の整備を促進することで不正利用を防止し、競争的研究費が有効活用されている状態を実現する。また、公正な研究活動のための体制の充実・強化を図る。	①「大規模学際研究プラットフォーム」における学際的・先進的基礎研究の推進により生まれた成果の状況 ②本研究費については、定期的に予実と対照を行うこと、当該成果は本年度により、期間の経過により、研究費の削減を必要とする場合、当該成果は本年度により、期間の経過により、研究費				

[illegible]

9-6 国家戦略上重要な先端技術の推進	9-5-7	宇宙・航空分野の研究・開発・利用における産業界、関係機関及び大学との連携、協力を強化する。	①大学・企業等との共同研究の件数（件）（目標値：700件（毎年度）） ②技術移転（ライセンス移転）契約件数（件）（目標値：270件（毎年度）） ③施設・設備利用件数（件）（目標値：60件（毎年度）） ④JAXAにおいて人材交流を行った数（人）（目標値：500人（毎年度））	①1,156件（2017年度）、864件（2018年度）、908件（2019年度）、949件（2020年度）、868件（2021年度） ②352件（2017年度）、372件（2018年度）、335件（2019年度）、334件（2020年度）、358件（2021年度） ③124件（2017年度）、104件（2018年度）、138件（2019年度）、191件（2020年度）、206件（2021年度） ④721人（2017年度）、696人（2018年度）、631人（2019年度）、609人（2020年度）、628人（2021年度）	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構運営交付金に必要な経費（レビュー番号：2023-文科-22-0340） 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備費（平成25年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0349 宇宙・航空科学技術推進の推進に必要な経費（レビュー番号：2023-文科-22-0319）	○産業界、関係機関及び大学間における共同研究、技術移転、施設・設備提供、人材交流等を行い、創発的に基づく研究開発や人材育成等の取り組みを支援することで、産業界、関係機関及び大学との連携、協力の強化に貢献する。
	9-5-8	輸送網の更なる安全性向上、高速幹線高速バス等の新型バス及び燃料サイクルに関する研究開発を推進し、持続的なエネルギー基盤・成長基盤を構築し、2050年カーボンニュートラルの実現に貢献する	① 安全性向上等の革新的技術開発によるカーボンニュートラルへの貢献に関する年度評価（2022年度以降）（目標値：B評価以上（2023年度）） ② 「原子力システム研究開発事業」における当該年度に実施する中間評価及び事後評価での評価（SABCD）のうち、計画通りの成果が挙げられ、又は見込まれるとされたA評価以上の評価を受けた課題の件数割合（目標値：90%（2023年度））	①評価中（2022年度） ②90%以上（2021年度、2022年度）	燃料サイクル関係推進調整等交付金（平成27年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0337 原子力システム研究開発委員会費（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0340 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備費（平成25年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0342 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備費（エネルギー）（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0343 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構運営交付金に必要な経費（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0350 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備に必要な経費（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0351	○多様な原子力システム（原子炉、蒸気炉、燃料加工等）に關し、革新的な技術開発を推進しており、原子力イノベーションの創出につながる新技術を見出すことで目標の達成に貢献する。 ○高速バスが提供及びこれによる熱利用技術の研究開発等を行うことにより、原子力利用の更なる多様化・高度化の可能性を追求するとともに、高速バスが大学の研究開発に関する人材育成の取組を進めることで、持続的なエネルギー基盤の構築に貢献する。 ○高速バス・燃料サイクルに関する研究開発を進めることで、将来のエネルギー政策の多様化に貢献するとともに、資源の有効利用や放射性廃棄物の減量化・有害度低減等の課題に取り組む。
	9-5-9	多様な研究リソースや基盤施設を活用し、幅広い基礎基礎研究を進めるとともに、その成果の社会実装やイノベーション創出に取り組み、革新的な原子力イノベーションの持続的創出を達成する	① 原子力科学技術に係る多様な研究開発の推進によるイノベーションの創出に関する年度評価（2022年度以降）（目標値：B評価以上（2023年度））	①評価中（2022年度）	原子力研究開発の推進事務（平成23年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0325 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備費（平成25年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0342 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備費（エネルギー）（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0343 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構運営交付金に必要な経費（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0350 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備に必要な経費（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0351 試験研究調整等促進事業費補助金（令和5年度）①	○J-PARC、JRR-3、「常陽」等の基盤施設を活用し、多様な分野に貢献する中性子や放射光の利用研究を推進するとともに、国内外における活用を促進し、原子力の研究開発の基盤を支える。また、新たな試験研究炉の設計に係る検討に関係自治体や大学等と連携して取り組み、世界最先端の原子力科学技術の創出に貢献する。 ○産官学の連携強化を含む多様な研究開発体制の構築に取り組む。研究開発成果の最大化を図ることで、成果の社会実装やイノベーション創出に貢献する。
	9-5-10	我が国全体の研究開発や人材育成に貢献するプラットフォーム機能の充実のため、国内外の研究機関や大学、産業界、立地自治体と連携して、原子力人材の育成に取り組む。核不拡散・核セキュリティの強化に向けて取り組み、原子力の平和利用を推進する。交付金を交付し、立地自治体等関係者の理解と協力を得ることにより、発電所施設等の設置及び運転の円滑化を図る。	① 我が国全体の研究開発や人材育成に貢献するプラットフォーム機能の充実（に関する年度評価（2022年度以降）（目標値：B評価以上（2023年度）） ② 国際原子力人材育成イニシアティブ事業における事後評価（SABCD）のうち、A評価以上の評価を受けた課題の割合（目標値：90%（2023年度））	① 評価中（2022年度） ② 90%以上（2021年度、2022年度）	経済協力開発機構原子力機関（OECD/NEA）共同事業参加（昭和41年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0322 国際原子力人材育成イニシアティブ（平成22年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0326 核不拡散・核セキュリティ関連業務（平成23年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0327 燃料燃料利用技術等国際交流事業委託費（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0328 燃料燃料サイクル関係推進調整等交付金（昭和53年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0329 電力地域関係促進事業費補助金（特別電源所有者利活用振興事業補助金）（平成48年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0331 原子力発電施設研究開発事業費補助金（平成48年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0332 電力地域関係研究交付金、交付金事業等交付金（昭和48年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0333 止揚・調査等交付金（昭和49年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0334 燃料燃料利用・原子力施設技術試験研究推進交付金（平成54年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0335 原子力システム・産業等推進事業交付金（平成48年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0336 燃料燃料サイクル関係推進調整等交付金（平成27年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0337 経済協力開発機構原子力機関助成金（平成元年）① レビュー番号：2023-文科-22-0338 原子力平和利用推進調整費（平成48年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0339 原子力平和利用調査等事業費補助金（昭和61年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0341 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備費（平成25年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0342 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備費（エネルギー）（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0343 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構運営交付金に必要な経費（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0350 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備に必要な経費（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0351	○原子力機構の人材や基盤施設・設備を活用するとともに、国内外の研究機関や大学と連携しながら原子力分野の人材育成を行う。 ○地域住民への原子力発電に関する知識の普及に努め、地域住民の理解を促進する ○関係機関との連携を図り、核不拡散・核セキュリティ強化及び原子力の平和利用を推進する。
	9-5-11	東京電力福島第一原子力発電所事故の対応に係る研究開発の推進によって、技術的に難易度の高い廃炉工程の安全、確実、迅速な実施に貢献する	① 東京電力福島第一原子力発電所事故の対応に係る研究開発の推進に関する年度評価（2022年度以降）（目標値：B評価以上（2023年度）） ② 高知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業における事後評価（SABCD）のうち、A評価以上の評価を受けた課題の割合（目標値：90%（2023年度））	① 評価中（2022年度） ② 71%（2021年度）、87%（2022年度）	高知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業（平成27年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0324 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構運営交付金に必要な経費（復興事業）（平成25年度）① 2023-復興-22-0343 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備費（平成25年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0342 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備費（エネルギー）（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0343 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構運営交付金に必要な経費（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0350 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備に必要な経費（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0351	○東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所の廃炉に向けた原子力分野の課題解決に資する基礎的、基盤的研究や人材育成を推進することによって、廃炉の安全、確実、迅速な実施に貢献する
9-7 原子力分野における研究開発の推進	9-5-12	高レベル放射性廃棄物の処理処分に関する技術開発を行い、燃料サイクルを推進するための技術基盤を構築する	① 高レベル放射性廃棄物の処理処分に関する技術開発の着実な実施に関する年度評価（2022年度以降）（目標値：B評価以上（2023年度））	①評価中（2022年度）	放射性廃棄物処理化研究開発の推進（平成26年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0323 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備費（平成25年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0342 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備費（エネルギー）（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0343 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構運営交付金に必要な経費（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0350 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備に必要な経費（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0351	○加速型燃料システム（ADS）を用いた高度化技術の研究開発を推進するとともに、高レベル放射性廃棄物等の減量化、有害度低減技術を開発することで、燃料サイクルのための技術基盤の構築に貢献する。
	9-5-13	原子力施設の廃止措置及び放射性廃棄物の処理処分の計画的遂行と技術開発の取組を進め、安全を最優先とした持続的なバックエンド対策を推進する	① 安全を最優先とした持続的なバックエンド対策の着実な推進に関する年度評価（2022年度以降）（目標値：B評価以上（2023年度））	①評価中（2022年度）	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備費（平成25年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0342 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備費（エネルギー）（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0343 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構運営交付金に必要な経費（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0350 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構施設整備に必要な経費（平成17年度）① レビュー番号：2023-文科-22-0351	○研究施設等から発生する低レベル放射性廃棄物の管理施策を進める。また、利用実態のない放射性廃棄物の廃止措置を進める。 ○原子力施設施設閉鎖センターにおいて閉鎖の手続きを円滑に遂行するため、原子力施設閉鎖センター等に設置された閉鎖委員会を開催する。
	9-5-14	東京電力福島第一原子力発電所の事故に際し原子力関係の取組について、被害の実態に応じて、原子力損害賠償紛争解決センターによる被害の認定や原子力損害賠償紛争解決センターによる賠償の仲介等を実施することにより、被害の被害の救済を図る	①原子力損害賠償紛争審査会における取組状況のフォローアップ回数（目標値：3回（2023年度）） ②原子力損害賠償紛争解決センターにて受理した申立て件数（累計）のうち、手続が終了した案件（累計）の割合（目標値：90%（2023年））	①3回（2022年度） ②97%（2022年12月時点）	原子力損害賠償紛争審査会等（レビュー番号：2023-復興-22-0044）	○東京電力による賠償状況をフォローアップするため、原子力損害賠償紛争審査会を開催する。 ○原子力損害賠償紛争解決センターにおいて閉鎖の手続きを円滑に遂行するため、原子力損害賠償紛争審査会に設置された閉鎖委員会を開催する。